

郡上八幡における新規出店者の実態把握に関する調査研究 -地域特性を反映した経営上の工夫に着目して-

1X11D013-8 猪股 誠野

Seiya Inomata

岐阜県郡上市八幡町の中心市街地では移住者が新たに店舗を出店する傾向が見受けられ、各々が独創的な工夫によって地域に多様な働きかけを行っている。本研究は新規出店者の実態を、特に地域特性との関係で明らかにすることを目的とし、ヒアリング調査によって個々の事例の詳細を把握した。これにより、新規出店者の属性や出店までの経緯とともに、経営上の工夫を店舗デザイン、商売方法、地域への貢献的活動の三点から明らかにした。その結果、各新規出店者が地域特性を読み取った結果を経営に反映させていることが明らかになった。

Keywords : 郡上八幡、中心市街地、新規出店者、地域特性

1. 研究の背景と目的

1.1 研究背景

都市機能の大都市部への集中、少子高齢社会の到来といった社会情勢の影響により、地方都市では居住人口の減少と老年人口の割合の増加が引き起こされている。また、地方都市の中でも歴史的建造物や町並みが残されている市街地では、そうした社会情勢の影響に加え、町家の老朽化や狭隘道路による交通利便性の低さ、周辺地区での宅地整備などの余波を受け、居住人口の減少と老年人口割合の増加が著しくなっている。そのため、多くの歴史的景観の残る市街地では、如何に歴史的景観を残した状態で住環境を整備し、居住人口を維持、増加させるかが重要となっている。そうした現状の中、各地方自治体では歴史的建造物に加え地場産業などの地域資源を活かしたまちづくりを進めるとともに、住環境整備や補助金の給付、生活体験など様々な移住推進策を施し移住を促している。

岐阜県郡上市八幡町(以下、郡上八幡)では、歴史的建造物が形成する町並みや伝統的水利用施設といった地域資源を活かしたまちづくりが蓄積されてきた。また、「ふるさと郡上会」という移住を支援する外郭団体の設置や空き家バンク制度を整えるなど、移住推進策も講じている¹⁾。しかしながら、少子高齢社会の到来に加え、周辺地区での宅地整備や町家の老朽化、そして雇用の不足によって市街地では空洞化が進んでいる。空洞化は空き家や空き地の増加による景観の損失、町の担い手の不足を招くため、地域の存続が危惧されている。

一方で、新たな動向として中心市街地において自ら仕事を創出し、新規出店する移住者が現れてきている。また、新規出店者たちは店を運営するために様々な工夫を凝らすことで、地域に根差

した店を目指すと同時に独自性を創出している。今後そうした移住者による働きかけが地域に新規性や多様性をもたらし、地方都市の持続に繋がっていくと想定される。

1.2 研究目的

以上のような背景から、本研究では郡上八幡の中心市街地における新規出店者を対象者とし、各新規出店者の属性や出店までの経緯を把握するとともに、経営上の工夫を地域特性との関係性から明らかにすることを目的とする。これにより、移住者の増加が予想される地方都市において、今後どのような変化や新規性をもたらされる可能性があるのか想定するための示唆を得ることを期待する。

2. 研究の概要

2.1 既存研究の整理

(1) 流入者が地域にもたらす影響に関する研究

原田ら²⁾は、大阪市空堀地区において新規流入者が表現・発信・交流の場の創出やまちづくりを動機として行っている創造的活動が、地域に多様性や住民同士の交流の場を創出していることを明らかにしている。長谷川ら³⁾は新潟市越前浜集落において、移住者が中心となって開催されたイベントにより地域内外の人同士が居合わせる場が形成されたことで、外部の働きかけが地域住民に浸透し、結果的に住民の一部に地域活性意識が芽生えたことを明らかにしている。

(2) 郡上八幡を対象とした研究

中嶋ら⁴⁾は水辺空間における地域コミュニティを対象とし、それらが維持されるためには水辺空間に対する「行動規範」及びコ

コミュニティに対する「組織の枠組み」の二つのローカルルールにより地域コミュニティが環境の変化に応じること、そして個人による「行動の規範」の実践が必要であると述べられている。The Yee Sing⁵⁾は中心市街地の主要な通りの沿道建物を対象とし、2000年時と2010年時の建物ファサードを比較することで、建物の変化状況の実態を明らかにしている。高橋⁶⁾はこれまでのまちづくり組織の活動を体系的に整理し、どのようにまちづくり活動が展開されてきたのかを明らかにしている。これらの研究をはじめとして、まちの中の音と住民が想起する生活像との関係性を扱った研究⁷⁾、町中に存在しているしつらえの創出と展開プロセスに関する研究⁸⁾など郡上八幡では多様な研究がこれまでに行われてきている。

2.2 本研究の位置づけ

以上のように、特定の地域における移住者の取り組みやそれが地域にもたらす影響、変化を扱った研究は既に存在している。そのため、本研究では既存研究で用いられている手法を踏襲しながらも、より一人一人の新規出店者に焦点を当て、出店経緯や経営上の工夫を詳細に記述する。これにより、今後新規出店者が地域にどのような変化や新規性をもたらす可能性があるのか予想する上での示唆を得るための研究として位置づけられる。

2.4 研究の方法

本研究では、中心市街地における建物調査の結果により抽出された新規出店者に対しヒアリング調査を行うことで、新規出店者の属性、流入実態及び経営上の工夫を明らかにする。流入実態については流入して来た経緯と物件の取得方法に着目することで、何を主たる目的とし、どのような経緯で新規出店者が地域に流入してきているのかを把握する。また、経営する上での工夫については、店舗デザイン、商売方法、地域への貢献的活動の三つの観点から分析することで、地域特性がどう経営に反映されているのかを明らかにする。

3. 対象地概要

3.1 岐阜県郡上市八幡町の概要

岐阜県郡上市八幡町は、岐阜県のほぼ中央に位置しており、東西に走る吉田川によって中心市街地は南北に二分され、北側が北町、南側が南町と呼ばれている。古くから東海地方と北陸地方を結ぶ交通の拠点であり、八幡山に



図3-1: 郡上八幡の位置

八幡城が築かれてからは城下町として栄えた。三方を山に囲まれており、閉鎖的な環境であったことから独自の文化が育まれてきた。

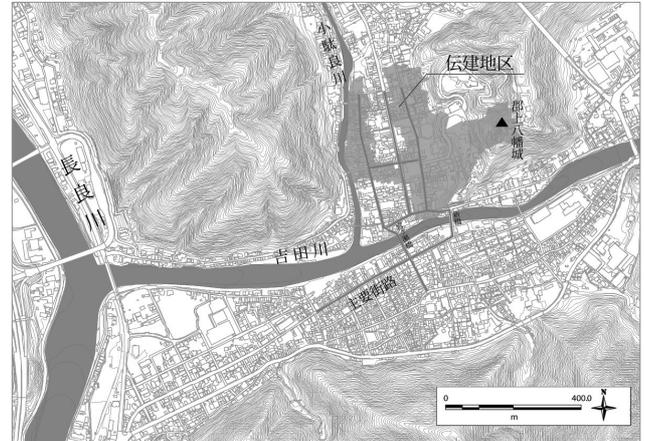


図3-2: 中心市街地周辺図(国土地理院基盤情報に加筆)

城下町として栄えた時代に築かれた町割を始めとする都市基盤が現在の町の骨格を形成しており、建造物の再建と改修を重ねることで歴史的な景観を保全してきた。その一つの成果として2012年には北町の13地区が重要伝統的建造物群保存地区(以下、伝建地区)に指定されている⁹⁾。また、市街地全域に水路網が張り巡らされており、随所に生活の中で利用されてきた水利用施設を見ることができ、今もなお使われているものも存在している。更に、国無形民俗文化財に指定されている郡上踊りが催される夏の時期は全国各地から参加者が集まり、多くの観光客で町中が賑わいを見せる。このように、城下町から続く生活の歴史が文化と景観の両方に色濃く残されており、それらが地域固有の資源となって地域の魅力を創出している。

3.2 まちづくりの歴史と空き家の現状

郡上八幡におけるまちづくりの歴史と空洞化の現状について、文献資料⁶⁾⁹⁾¹⁰⁾及び郡上市総務部次長兼八幡振興統括である武藤隆晴氏へのヒアリング結果を元に概要をまとめる。

1) まちづくりの歴史

1963年に上下水道が敷設されたことで、伝統的な水利用施設が次第に利用されなくなり、その価値が失われつつあった。そうした中で1977年に渡辺一二(多摩美術大学名誉教授)らの研究チームが郡上八幡の独自の水環境に注目し調査を行い、その結果を公表した。この調査発表が大きなきっかけとなり、行政と住民の中でこれまで築いてきた独自の水環境の価値を再認識する動きが現れ始め、「さつきの会」を代表とする住民組織によ

って水環境の整備が始められた。その後、行政側も1982年に「八幡町水を活かしたまちづくり構想」を策定し、用水路の改修や伝統的水利用施設の保存といった水環境の保存を進める体制が整えられていく。また、同時期に柳町の住民から老朽化した用水路改修の陳情が出されたことがきっかけとなり、用水路の改修に合わせて町並みも一体的に保存していくことが考え出される。その結果、行政が用水路を改修する代わりに住民による主体的な町並み保存が求められたことで「柳町町並み保存会」が設立され、この動きが町に広まっていき、水環境と町並みを活かしたまちづくりが進められていった。

表3-1: 郡上八幡におけるまちづくりの経緯

年代	まちづくりに関する出来事
1963	上下水道の敷設
1973	水環境造形計画研究会による調査開始
1976	さつきの会設立
1977	水環境造形計画研究会による調査結果報告
1982	「八幡町水を活かしたまちづくり構想」策定
1984	八幡町第一次総合計画の策定
1985	柳町町並み保存会設立 八幡町ポケットパーク構想
1986	職人町町並み保存会設立
1990	いがわと親しむ会
1991	郡上八幡景観条例策定
1993	鍛冶屋町町並み保存会設立
1996	都市計画マスタープランの策定
1997	34のポケットパークの整備完了
1998	郡上八幡まちづくり協議会設立
1999	産業振興公社発足
2000	空き家実態調査
2001	街なみ環境整備事業導入
2002	街並みづくり町民協定 町家本右衛門活用実験開始
2004	水辺空間調査の実施 合併により「郡上市八幡町」へ
2006	郡上市総合計画策定 まちづくり交付金事業の導入
2010	歴史的まちづくりランドデザイン調査
2011	郡上市景観計画策定
2012	町家「玄麟」活用プロジェクト 重要伝統的建造物群保存地区認定(北町)
2013	NPO法人「郡上八幡水の学校」設立

2) 空洞化による空き家の現状

2013年の行政による空き家調査の結果、市街地だけでも353件の空き家が確認され、市街地内の1割強が空き家になっていることが明らかになった。2000年に行われた同様の調査の結果では207件であったことから、1年に約10件のペースで空き家が増加していることになる。現在、郡上市では空き家の利用実験や空き家バンクの設置、産業振興公社による空き家の買い上げなどの空き家対策を講じてはいるが、空き家という個人資産に行政が積極的に介入することは平等性に欠けてしまうということもあり、現段

階では空き家増加の速さに対応しきれない現状にある。

また、空き家の所有者の多くが貸し出すことに好意的でないという問題もある。郡上八幡では土地柄として家系を重んじる人が多く、空き家となっても仏壇の管理上の問題、また代々受け継がれてきた家系の家屋を手離すことへの背徳感から空き家をそのままにしておく所有者が大半を占めている。加えて、郡上踊りや盆正月に親族が泊まる場所として確保しておきたいという所有者も多く存在している。

4. 新規出店者の流入実態

4.1 新規店舗一覧

本研究では、中心市街地において5年以内にオープンし、かつチェーン店ではなく個人によって開業された店舗を新規店舗とし、その経営者を新規出店者とする。

2014年9月2日に新規店舗を抽出するため中心市街地において建物調査を実施した。その結果、対象区域において22件の新規店舗が抽出され、そのうち17店舗に対してヒアリング調査を行った。

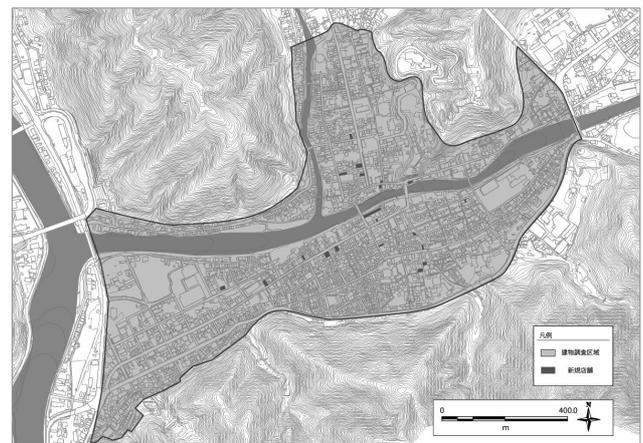


図4-1: 調査対象区域と新規店舗22件の分布(国土地理院基盤情報に加筆)

表4-1: ヒアリング調査概要

日時	2014年10月11日～10月12日 2014年11月10日～11月12日
対象者	新規出店者17人
方法	店舗を訪問し、1対1のインタビュー形式で行った。 ヒアリング内容は主に以下のような質問である。 【年代、性別、出店理由、郡上八幡を選んだ理由、物件の取得方法、経営する上での工夫、郡上八幡の魅力】
データの取り扱い	会話内容をボイスレコーダーにより録音し、調査終了後テキスト化することで調査結果のまとめと分析に用いた。

4.2 流入経緯と物件の取得方法

ヒアリング調査から得られた各新規出店者の属性は表4-3の通りである。本節では、属性のうち1) 流入経緯、2) 物件の取得方法に着目することで、新規出店者たちが何を目的として郡上八幡に流入し、どのように物件を取得したのかを明らかにする。

表4-3:新規出店者の属性

店名	業種	年数	年齢(代)	出身地	居住地	取得経緯	所有権利	流入経緯
TAKARA GALLERY	ギャラリー	2年目	30	愛知県	店舗併用住宅	知人紹介型	賃貸	移住先行型
まちやど	ゲストハウス	1年目	30	青森県	市街地内	知人紹介型	賃貸	
にど	カフェ	3年目	50	岡山県	八幡町内	知人所有型	賃貸	
こぼこぼ	居酒屋・美酒工房	2年目	40	東京都	八幡町内	行政・公社紹介型	賃貸	
カンナ	カフェ	1年目	60	福岡県	八幡町内	知人所有型	賃貸	
糸cafe	カフェ	1年目	30	郡上市八幡町	八幡町内	知人紹介型	賃貸	帰郷志望型
灯	居酒屋	3年目	30	郡上市八幡町	店舗併用住宅	知人所有型	賃貸	
玄麟	バル	2年目	30	郡上市八幡町	市街地内	行政・公社紹介型	賃貸	
おくむら鍼灸接骨院	接骨院	1年目	30	郡上市八幡町	店舗併用住宅	知人紹介型	建物・土地	
清水珈琲	カフェ・ギャラリー	3年目	60	郡上市八幡町	市街地内	自己所有型	建物・土地	
彩屋	花屋	1年目	30	郡上市八幡町	店舗併用住宅	自己所有型	建物・土地	出店志向型
俄	蕎麦処	1年目	40	郡上市白鳥町	市街地内	知人所有型	建物	
Sympa	レストラン	1年目	40	郡上市美並町	郡上市内	行政・公社紹介型	賃貸	
eBANATAW	カフェ	4年目	30	不破郡垂井町	店舗併用住宅	知人紹介型	賃貸	
とも家	カフェ	1年目	20	美濃加茂市	郡上市外	知人所有型	賃貸	
kukka	雑貨・花・カフェ	2年目	50	郡上市大和町	八幡町内	行政・公社紹介型	賃貸	
NANA	カフェ	1年目	30	郡上市八幡町	郡上市内	知人紹介型	賃貸	

1) 流入経緯

ヒアリング調査により新規出店者の流入経緯を明らかにした結果、流入してきた主たる目的から以下のように分類できた。

①移住先行型

郡上八幡に住む、ということの主たる目的として移住してきたパターンであり、相当する5人の新規出店者全員が岐阜県外の出身者である。多くが郡上八幡を訪れた際に魅力を感じ、移住することを決めている。魅力を感じた対象として挙げられているのは、郡上踊り・水や空気など環境の良さ・人とのつながり・昭和の風情といった郡上八幡特有のものが中心であり、中にはアクセス性や町中の便利さから都会と田舎両方の良いところがある点に生活する上での魅力を感じている新規出店者も存在している。

②帰郷志望型

郡上八幡出身者が就職や進学を機に郡上八幡を離れたが、新たな生活を始めるためにUターンしてきたパターンである。帰郷してきた時期としては、結婚や退職といった人生における節目や、都会での生活から離れたと感じた時期が挙げられている。また、

表4-2:新規店舗一覧

移住先行型						
	TAKARA GALLERY ギャラリー	まちやど ゲストハウス	にど カフェ	こぼこぼ 居酒屋兼酒造	カンナ カフェ	
	帰郷志望型					
		糸カフェ カフェ	灯 居酒屋	玄麟 バル	おくむら鍼灸接骨院 接骨院	彩屋 花屋
		出店志向型				
清水珈琲 カフェ・ギャラリー			俄 蕎麦処	Sympa レストラン	eBANATAW カフェ	とも家 カフェ
kukka 花・雑貨・カフェ			NANA カフェ	NANA カフェ	NANA カフェ	NANA カフェ

中には郡上八幡を離れる以前から帰郷して出店することを意識し、資格や専門的な知識を習得するために都市部へ出た新規出店者も存在している。

③出店志向型

郡上八幡において、出店することを主たる目的として流入してきたパターンであり、多くが郡上市内の近隣の町の出身者である。出店願望があり、物件を探していた時に、偶然市街地内で利用できる空き物件が見つかったために流入しており、周辺の地域から通いで店舗を経営している出店者もいる。また、近隣の町の出身者が郡上八幡に来て出店している理由としては、観光地として有名であり客の絶対数が多く人目に付きやすいため、店舗を構える環境として条件が良いことが挙げられている。

2) 物件の取得方法

ヒアリング調査により物件の取得方法を明らかにした結果、以下の4つのパターンに大別できた。

①知人所有型

新規出店者の知人が空き物件を所有しており、知人の方から申し出を受けて物件を取得したパターンであり、5店舗がこのパターンに相当する。

②知人紹介型

知人から空き物件情報の提供を受けたことで、空き物件の所有者と繋がり、物件を取得したパターンであり、新規出店者間での空き物件の情報共有という動きも見受けられている。17店舗のうち、6店舗がこのパターンに相当する。

③自己所有型

2店舗が相当しており、元々持っていた土地に新築された店舗

と両親が経営していた店舗を改修し、業種転換することで出店した店舗である。

④行政・公社介入型

4店舗が相当しており、1店舗は空き家バンクを活用して物件を取得している。残りの3店舗は産業振興公社が購入し、複合商業施設として一般に貸し出している物件に、公社側から申し出があり店舗を出店している。

5. 新規出店者による独創的工夫

新規出店者が店舗を経営する上で実施している工夫をヒアリング調査により抽出した結果、主に店舗デザイン、商売方法、地域への貢献的活動の三側面において工夫が創出されていることが明らかになった。ここでは、新規店舗2店舗の事例を具体的に示す。

1) 事例1: eBANATAW

①店舗デザイン-店先空間における工夫

eBANATAWでは、店先の水路沿いに設けられた柵に麻袋が掛けられている。これには、麻袋を掛けることで外観において他店舗との差別化を図るとともに、通行人がふと視線を向けた時に一目でカフェであると認識できるようにという店主の意図が反映されている。また、入口付近にはレトロな家具や雑貨、骨董品などが並べられている。これらのほとんどは住民が不要になった物を店主が譲り受けたものであり、古民家と同様に古い物を活かしたいという理由から並べられている。以上のように、店舗の外観における工夫がファサードではなく店先空間で行われている理由は、町並みへの配慮と古民家としての建物の魅力を最大限に生かしたいという店主の思いが背景にあるためである。



図5-1: eBANATAWの店先空間

②商売方法-生活面における工夫

eBANATAWの店主は出店を機に郡上八幡に移住して来たため、地域との繋がりを全く持っていなかった。地域志向で商売をするためには地元の人との繋がりが必要であると考え、生活面において努力を重ねてきている。それは、地元の人への挨拶を欠かさないこと、店先の河川の清掃、そして町中でのゴミ拾いである。一見商売とは関係のないことのようにだが、地元の人に自分がどういう人間であり、ここで何をしているのかを地元の人に逸早く認めてもらうためには、挨拶や掃除など生活面での努力が大事であると

考えており、4年目を向かえた今でも継続している。

2) 事例2: 糸カフェ

①店舗デザイン-店舗ファサードにおける工夫

糸カフェは、店舗の1階部分が全てガラス張りになっており、店内の様子が通りから透視ができる。一方で、中心市街地における既存の飲食店の多くは、入口や窓に暖簾、格子が設置され店内の様子が見えなくなっており、実際に地元の方から人目が気になるという声が挙がっている。しかし、店内でイベントを実施するなど取って代わっている様子を通りに対して見せることで、町に活気を与えたいという意図があり、そのためソフトの面での工夫を凝らすことで住民が通りから見られることに慣れるように働きかけを行っている。



図5-2: 糸カフェ1階部分

②地域への貢献的活動-情報発信の場の創出

また、イベントの内容にも工夫が施されている。糸カフェの店内にはワークスペースが設けられており、今後郡上八幡で何かを始める意思のある人や、周辺地域で活動を行っている人に場所を提供している。具体的にはものづくりワークショップ、農家や移動販売を行っている方を招いての市場などが開催されている。これらの活動を通して、郡上八幡及びその周辺地域での創作的な取組の情報発信の場を創出するとともに、人と人の「物」を介した交流の場を生んでいる。



(https://www.facebook.com/ftopproject/photos_stream より引用)

図5-3: 店先での市場の様子

図5-4: 店内のワークスペース

3) 出店者の経営上の工夫と地域特性の関係

ヒアリングの結果明らかになった経営上の工夫を表5-1に示す。事例として挙げた2店舗と同様、多くの新規出店者が店舗の業種や立地と地域特性との関係性を読み取り、経営に反映させていることが明らかになった。

表5-1:新規出店者の地域特性を反映した経営上の工夫

	地域特性を反映させた経営上の工夫
TAKARA GALLERY	【店舗デザイン】…店内の「活動」を見せるためにガラス面をファサード内に組み込んでいる。 【販売方法】…他の新規店舗を紹介することで顧客の共有を行っている。 【地域への貢献的活動】…郡上八幡の地場産業であるスクリーン印刷を手ぬぐい作り体験を通して発信している。
まちやど	【店舗デザイン】…町並みに合うよう入口に格子を設置し、看板にスクリーン印刷で作成した布を使用している。 【地域への貢献的活動】…空き家が多いこと、地域の魅力を発信できていない点への問題意識から、地域住民と宿泊者の交流の促進や地域住民への空き家の活用モデルの提示を意図したイベントを行っている。
にど	【販売方法】…モーニング文化が根強くあるため、出店後の営業時間帯を新たに設けた。
こぼこぼ	【地域への貢献的活動】…郡上八幡の水質の良さを活かして造った麦酒を郡上八幡の地ビールとして売り出しており、現在ブランド化を目指している。
カンナ	【地域への貢献的活動】…地元住民が団欒できる場を提供するとともに、地元住民と観光客が交流できる場を創出している。
糸café	【店舗デザイン】…ファサード内のガラス面を敷いて隠さず、住民が慣れてくれるようソフト面においてイベントを開催するなどの工夫を行っている。 【地域への貢献的活動】…店内ワークスペースを今後郡上八幡で何かを始めたい意思のある人や、周辺地域で活動を行っている人に場所を提供しているすることで、情報発信の場を創出している。
灯	【販売方法】…親子講という郡上八幡に根強く残っている風習を取り入れ、店内に大座敷を設けている。 【地域への貢献的活動】…若い年代の人達が帰郷してきた際に集まれる場を提供している。
玄麟	【販売方法】…人々との近さという郡上八幡の魅力を活かし、顧客を共有する意図を持って経営をしている。
おくむら鍼灸接骨院	【販売方法】…郡上八幡では生連継げられるような職に就くことが困難であることから、資格を取得し専門職に就くことを考え接骨院の道を選んだ。
清水珈琲	【店舗デザイン】…町並みに加え、隣接する蔵の色合いにも合わせた外観デザインとしており、また町内の駐車場ほとんどが有料であることから駐車場を設けることで周辺地区から訪れやすいようにしている。
彩屋	【店舗デザイン】…以前はガラス面がアルミサッシで囲われていたが、改修して木枠に取り替えることで町並みに合った外見にした。 【販売方法】…花の売れない夏の時期は、店内のスペースを活用し観光客向けのワークショップを実施している。
俄	【販売方法】…親子講という郡上八幡に根強く残っている風習を取り入れ、店内に大座敷を設けるとともに夜間も営業している。
Sympa	【販売方法】…隣町から流入してきていることもあり、近隣の老舗の商品を使う、または材料を借りに行くなどのコミュニケーションを取ることで地域に溶け込む努力をしている。
eBANATAW	【店舗デザイン】…町並みや古民家としての建物の魅力に配慮し、麻袋や雑貨品を店先空間に置くことで他店舗との差別化を行っている。 【販売方法】…地域との繋がりを維持するため、住民への挨拶、店舗周辺の清掃、町内でのゴミ拾いを自主的に行うなど生活面において努力をしている。
とも家	【店舗デザイン】…町並みに配慮し茶を基調とした外観としており、その中で店先に立て看板やボードを用いて宣伝を行っている。また、入り口部分はガラス張りの引き戸になっており、店内が透視出来るようになっている。
kukka	【販売方法】…元々は花と雑貨を中心に扱っていたが、冬の開花期を乗り切るためには住民が利用しやすい店舗にする必要があると考え、新たにモーニング文化を取り入れカフェを始めた。
NANA	【店舗デザイン】…郡上八幡の木や森のイメージを取り入れ、白を基調とした中に木の暖かさを表現している。

6. 結論

6.1 新規出店者の実態のまとめ

流入経緯については、主たる目的に移住・帰郷・出店があり、主に県外出身者が移住、周辺地域の出身者が出店を目的として流入している。このことから郡上八幡と新規出店者の出身地との地理的な位置関係が流入経緯に影響していることが示唆された。

物件の取得方法に関しては、元々有していた個人的なネットワークを用いて物件を取得している新規出店者が最も多かったが、中には地域内で自らネットワークを構築して空き家情報を取得、共有することで物件を取得した新規出店者も存在しており、民間での積極的な空き家の活用が見られた。

新規出店者が店舗を経営する上での工夫については、主に店舗デザイン・販売方法・地域への貢献的活動の3側面において現れていることが分かった。そして、それらは新規出店者各々が町並みや風習、更には地域の問題点といった地域特性を読み取った結果を経営に反映させていることが明らかになった。

6.2 考察

本研究では、新規出店者の実態を属性及び流入実態、そして

地域特性を反映させた経営上の工夫から明らかにした。これまで、郡上八幡では行政と住民が一体となって歴史的な町並みや水環境を活かしたまちづくりを行い、地域の魅力を保全してきた。しかしながら、これまででは地域の魅力が地域内外に十分に認識、発信されずにいた。そのような中、移住者である新規出店者により地域特性が経営に反映されたことで、商業活動を通して地域の魅力が住民や来訪者に発信され始めていることが明らかになった。また、地域の風習を経営に反映している新規出店者もいることから、地域の固有文化の継承も行われていると言える。したがって、新規出店者によりこれまでのまちづくりの蓄積により保全されてきた地域の魅力や地域に根付いている文化が商業活動を通して発信、継承されており、こうした動きが地域の持続性を支える1つの要因になっていくと考えられる。

6.3 今後の課題

本研究では、新規出店者の実態を属性、出店に至るまでの経緯、そして経営上の工夫を地域特性に着目することで明らかにした。しかしながら、新規出店者は今後も増加することが予想されるため、継続して新規店舗の増加を迫る必要がある。また、新規出店者による地域への多様な働きかけが、変化として生じたが、今後の課題としては、新規店舗の増加を迫ると同時に、新規店舗の増加及び新規出店者の活動が地域にどのような変化をもたらしているのかを明らかにすることが必要である。

<参考文献>

- 1) 郡上市交流・移住推進協議会「ふるさと郡上会」2014年12月25日更新(最終閲覧日2015年1月9日) <http://www.furusato-gujo.jp/>
- 2) 原田陽子、山崎啓輔、野嶋慎二：「大阪近郊地区における新規流入者の創意的暮らしかたに関する研究-セルフビルドと創意的機軸に着目-」日本建築学会計画系論文集 第76巻 第667号 1641-1650 2011年9月
- 3) 長谷川崇、岩佐明彦、會澤裕貴、大岡健太郎、河野泰教、田沢孝紀：「移住者の働きかけによる過疎集落の空間的・社会的変容-浜ノグリによる建築ストック利用の可能性-」日本建築学会計画系論文集 第76巻 第668号、1791-1798 2011年10月
- 4) 中嶋伸忠、田中尚人、秋山孝正：「水辺空間を基盤とした地域コミュニティの形成に関する研究」土木学会論文集D V01.64 No.2, 168-178, 2008.4
- 5) Teh Yee Sing : 「A Study of Building Change Pattern in Traditional Japanese Town, Gujo Hachiman」2012年度早稲田大学修士論文
- 6) 高橋敬宗：「郡上八幡におけるまちづくりの展開プロセスに関する研究」2005年度早稲田大学修士論文
- 7) 古川日出雄：「まちの音と住民の想起する生活像に関する調査研究-岐阜県郡上八幡を対象として-」2009年度早稲田大学卒業論文
- 8) 小野間良：「郡上八幡におけるしつらえの創出と展開プロセスに関する研究」2010年度早稲田大学修士論文
- 9) 郡上市郡上八幡北町-伝統的建造物群保存対策調査報告書-平成23年3月郡上市教育委員会発行
- 10) 八幡町都市計画マスタープラン 平成8年岐阜県郡上市八幡町発行